

教育民生常任委員会報告書

議 長	事務局長	次 長	書 記
			

会 議 日 時	令和3年11月8日（月） 午前10時 ～ 午前11時50分			
会 議 場 所	○議員控室 ○委員会室 ○議会図書室 ◯その他（しまんと町社会福祉協議会）			
出 席 者 数	委員 5名のうち出席者 5名			
出 席 委 員	委 員 長	古谷 幹夫	委 員	田邊 哲夫
	副委員長	武田 秀義	委 員	堀本 伸一
	委 員	水間 淳一		
説 明 者	社会福祉協議会理事	八木会長	社会福祉協議会 監 事	吉永監事
		北村副会長		中嶋監事
		牧野理事	社会福祉協議会 職 員	長谷部局長
		武内理事		田中在宅福祉課長
		小野川理事		尾崎総務地域課長
		戸田理事		
		横山理事		
		長森理事		
付 議 事 件	1. しまんと社会福祉協議会との意見交換会勉強会（非公開）			
	2. その他			
審 査 ・ 調 査	○社会福祉協議会からは八木会長、北村副会長を含め、理事10名中8名の出席と			
	2名の監事に加え、長谷部事務局長、尾崎在宅福祉課長、田中総務地域課長が出席。			
	○教育民生常任委員会からは議会だより60号を配布し、委員会の活動計画を中心に報告			
	○社会福祉協議会からは資料を基に、概要、理念、組織体制、事業・活動、財務状況等について、事務局長・各課長より詳しい説明報告を受けてから意見交換に入った。			
	○意見交換の場では人材・職員不足への対応に苦慮している事が中心課題となった。			
	・社協での人的手当の状況、人手不足への具体的方法は（武田委員）			
	⇒人員はギリギリでやっているのが現状			
	訪問介護事業の人員不足、高齢になっても仕事を続けていける仕組みの整備必要。			
	ハローワークに正職員の募集をするも応募が厳しい状況。			

	ケアマネジャーの資格は合格率 10%
	介護の仕事はイメージが良くないと親が止める傾向が見られる
	専門学校への希望が少ない
	若い人への魅力の発信をどうするか悩ましい課題だ（以上、田中課長）
	地元の高校卒業生から職員になってもらうことが重要だと考えており、行政にも協力を強く望む（八木会長）
	高校生へのアピールとして、土日でのアルバイト体験会を実施している（長谷部事務局長）
	ホームヘルプ職員が不足⇒行政として対応を考えていく方向も大事だ（八木会長）
	資格があつての業務であり、資格手当を検討する等改善が必要。社協の魅力の発信の仕方を重視する必要がある。人材不足は重要課題（長谷部事務局長）
	・福祉の取り組みは町の重要課題。処遇の改善も含め職員確保のしっかりした仕組みづくりが必要だ。（堀本委員）
	・社会福祉事業への理解を深めることができた。自立できることにさらに磨きをかけてもらいたい。（水間委員）
	⇒365 日の個別支援は難しい。地域の見守りも重要。点を面につなげることが社協の大事な役割。民生委員長、老人クラブ等との連携を密にしていくことも重要（長谷部事務局長）
	・高齢になっても元気で自立できる手助けできるメンバーが周りにいることも重要で、町の進める健康ステーション事業に積極的に参加することを勧めたい（古谷委員長）
	・職員給与の改善は大きな課題であり、現在資格手当加算を検討しており、町には財政的支援を要望したい（北村副会長）
	・社協として、介護保険事業は自立してやっていくが、職員不足の課題は町全体で捉える課題であり支援を願いたい（長谷部事務局長）
	・人材不足は全部門に渡る課題。若者が魅力を感じる職場となるには処遇も重要。専門学校は大変な費用がかかる。地元に戻ることを条件にした支援策も一つの方法。社協は重要な組織であり、支援のあり方は行政の課題だ。（田邊委員）
	・町内に残りたい若い人は多くいると思うので今後も働きかけをしていきたい

	(長谷部事務局長)		
	以上、今回初めての意見交換会では職員不足の課題に集中して終始してしまっ		
	たが、社協の組織・事業についての理解を深めることができたことは大きな収穫で		
	あった。		
	年に一度はこうした会を持つことを確認し合って閉会とした。(11 時 50 分)		
反 対 意 見			
報 告 日	令和3年11月11日(木)	委員長署名	古 谷 幹 夫 